

第 79 号

令和 8 年 3 月 31 日 発行

紅白華合戦レポート
川西市詩吟連盟結成 55 周年大会
第二回「和の祭典」案内など



発行者

公益社団法人 関西吟詩文化協会

公認

華洲会 (広報紙)

発行責任者
編集責任者

会 長 山口華雋
広報部長 秋月奎翁

紅白華合戦開催成功！

令和七年の、華洲会一番のハイライトといえば、「紅白華合戦」でした。これまでのコンクール形式と異なり、紅組・白組に分かれてさまざまな演し物を披露するという試みでした。さらに、審査員も一般の方々にすべて審査いただくという、文字通り初めて尽くしの行事となりました。

紅白華合戦開催にあたって

会長 山口 華雋



台風も華洲会の勢いに負けて太平洋を逃げたみたいですね。

おかげで今日は雨も降らずに、楽しい大会を開催することができました。今日の大会、本当に青年部の皆さん大変ありがとうございました。ご苦勞さまでした。今日も準備やら、全部青年部の皆さんがやってくれ

ています。本当に華洲会にとっては頼もしいことやなという風に思います。今日は前に並んでおられますプロの先生方に審査をしていただくということ、非常に結果が楽しみです。それと今回はすごい賞金が出ます。プログラムをやっと今日初めて私も見たんですけれども、何が起るのかとても楽しみにしています。

華洲会は、昭和三十八年に豊中で三浦華州先生が始められて、それから大東、滋賀県、京都、今は高知まで、支部が広がっていつてます。

人生の中で色々やってきました。学生時代も友達もいっぱいおりました。それから仕事も、職場も変わった。色々やって、その時一生懸命やってきました。詩吟も一生懸命やりました。もう六十数年になるんですよ、詩吟やり始め



当日は連吟を披露頂きました

て。色々なことをやってきて、最後に残ったのが詩吟です。詩吟やるからこんな元気えられるんです。やっぱり詩吟の良さっていうのは、まさに年をとっても本当に楽しめる。これだけみんな一緒に同じ趣味ですね、楽しい会を続けることができるのは詩吟のおかげやと。ただし、次の人たちを育てないかんということで、華洲会では、剣舞それから俳句・和歌から入ったら楽しいんですよ。いつまでも楽しい詩吟をやっていききたいと思います。今日はそれを一つの機会にしてみらって、そしてまた明日からの活力になってもらえたら

ありがたいなと思います。今日一日よろしくお願いいたします。

開会の挨拶

大会委員長 奥山 紅雫



今朝九時に来たらもう青年部の方たちが来ておられ

て、汗を流しながら準備していただいて、本当に若さを感じました。この秋季錬成大会ですけれども、今年はコンクールではなく、錬成大会をしようという形を取りました。それに際しまして、青年部の方たちに非常によくしていただきました。

中でも、青年部長の上野部長がプログラムから、座席表からご準備を全部頑張ってくださいました。また、今日は一般の審査員の先生にお越しいただきました。気楽な

気持ちで、ご審査していただければ良いかと思えます。今日、出場される方も、普段のコンクールではございません。みんな楽しくやっていければいいかなと思っております。よろしくお願いいたします。

華洲会錬成大会をふりかえって

川西大和支部 岡島 彩鼓



例年の大会とは様変わりした内容でした。紅白華合戦のネーミング、

審査員の選択、A1による組分けなど、青年部長の上野さんを筆頭に青年部の皆さんの努力に深く感謝申し上げます。

今回初めて参加した新人会員にとっても、今年の試みはとても楽しく、緊張を感じなかったと聞いております。さらに、勝利賞も物ではなく、賞金だったことも好感

が持たれたようです。

支部のメンバーが紅白に分かれることで団結力が薄れはしないかと懸念の声もありましたが、杞憂に終わりました。今後もこの会の継続開催を希望します。

親睦会については、例年に比べて早い時間帯に開始されましたが、会長をはじめ青年部により趣向が凝らされ、大変楽しい内容でした。

御 礼

党支部会員の堀彩剣が令和七年第六十一回大阪府連二部（指導者の部）におきまして、思いかげず優勝の栄をいただき、錬成会の席で披露していただき、またお祝いも頂戴し心より御礼を申し上げます。今後とも会長先生はじめ皆様方のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

青年部の活躍に感謝と労い

男山さくら支部 坂本 亮綜



このたびの秋季錬成会における新企画「紅白華合戦」は、大

盛況のうちに終了いたしました。今回の成功は、青年部・上野部長を中心とした皆様の多大なる尽力と努力の賜物であり、心より感謝申し上げます。賛辞と賞賛を込めて、深く労いの言葉をお伝えいたします。本当にありがとうございます。

企画立案から細部に至るまで、懇親会の斬新なアイデアとアトラクションには圧倒され、感心いたしました。会場は万雷の拍手に包まれ、一気に盛り上がり、楽しい雰囲気の中で同志の友好・親睦・交流の輪が一層深まる瞬間となりました。これは華洲会の次世代への

継承と未来に大きな希望と夢を与える快挙でもあります。

青年部の皆様の姿に誇りを感じ、他への自慢と将来への安心を覚え、真に嬉しく感動いたしました。HP委員会としては、この感動の場面を余すことなく収録し、YouTubeやSNSを通じて広く紹介・広報・PRに努めております。仲間づくりに少しでも貢献できればと、日々模索し、様々な工夫を凝らしております。

皆様には、HP等の閲覧・拡散・コメント投稿へのご協力をお願い申し上げます。あわせて、主要催事等の活動紹介を通じて会員増に寄与すべく、今後も一層の努力を重ねてまいります。

鍊成大会を振り返って 雋詠寺川支部高槻教場

園部 奎雋



初の発表形式、「紅白華合戦」成功バンザイの気持ちになりました。

青年部・企画部のお骨折りで、形態、出しものなど、「一」からの出発。形態が決まり、それぞれの支部、教場からの連絡・調整・手直し・プログラム編成と、上野先生の奮闘。青年部・企画部の協力で、発表日が来ました。

当日も、会長先生をはじめとして、青年部・企画部、その他の皆様方で、会場作り。

会が始まれば、青年部の大活躍あって、私は楽しませてもらいました。発表もすばらしく、一日を有意義に過ごせました。

個々に負担をかけず、みんなで作りに上げるのが理想ですが、やはり船頭さんはいたいへんですね。今までの発表会もたくさんのご苦労の上に、あぐらをかいていた私。反省してます（口だけかも）。

令和七年華洲会秋季鍊成大会 雋詠寺川支部 川田 紅祥



先日行われた鍊成大会。毎年競吟形式で行われていましたが、

今回は紅白合戦形式で行われました。

舞台上に立つとういう事で緊張するのは変わりませんが、何となく気持ち穏やかに過ごせたと思います。吟と舞と、かくし芸という部門で、皆さんそれぞれの個性が出ていると思います。

印象に残ったのは民謡をした磯田さんです。ご年配ではありながら、自前の衣装に身をまとい、とても楽しそうに民謡を歌って披露してくれました。何か胸が熱くなるというか、ほっこりしました。

そして、その後の懇親会では青年部が中心となって皆さんをおもてなし。

上野部長はじめ、大阪の皆さんの事前の打ち合わせや準備があったからこそ滞りなく会を進められたと思います。本当に結束力が素晴らしいと思います。



磯田鳳仁さんのかくし芸

どこの業界も若い世代が少なく、高齢化しています。華洲会青年部も平均年齢は四十代くらいでしょうか…。それでも、皆で何かをやろう！となったときギョツとまとまり、それぞれが力を発揮して良いものに仕上がるというのは素晴らしいと思います。

趣味の世界の活動ながらも、職場でも活かせる何かを勉強させて頂きました。

紅白華合戦を終えて

雋詠寺川支部高槻教場

加納 奎穰



今年の紅白華合戦は以前の競吟大会と違い隠し芸も加わり、より和やかで温かい拍手と笑いに包まれました。時に懇親会では、山口会長の「ヤマケンサンバ」が一番の

盛り上がりで、参加者の皆さんと共に私も楽しませていただきました。

今回、私は青年部として上野部長からズームミーティングでのお誘いから運営に関わる機会をいただくことになり、当日は上野部長の横につく形で音響係となりました。機材の扱いに慣れておらず、不安だらけで先輩の指示や支えでなんとかついていく状況でした。それでも、この大会は貴重な経験と学びでもありました。これまでほぼ吟者しか経験のない私にとって、今回音響係で知ったのは吟者一人ひとりの声を最大限に引き立てるための細かな配慮です。マイクの高さ・角度・伴奏の音量・タイミンなどどれも演者の魅力を損なわないように調整することが大切であり、難しさも知りました。

また青年部として大会運営に携

わり先輩達の責任感とチームワークの大切さを学ぶ一方で、準備の大変さと一人ひとりに負担がかかっていることも知り、これから少しずつ力になれるように頑張りたいです。

華洲会全体の温かい雰囲気でのような貴重な経験をできたことや、楽しませていただいたことを心より感謝しながら、今後も吟者としてはもちろん、支える立場としても詩吟を楽しみながら学び成長していきたいと思えます。

華洲会錬成吟詠大会を振り返って：

雋詠寺川支部 荻野 悦嬉



野山は、紅葉の錦に彩られる十月の十三日にめでたく「華洲会

錬成大会」が執り行われました。

私は初参加とあって心弾む思いでした。と言うのも訳あって、令和七年から某会より移籍をいたしました。

で、吟歴は二十三年となる若輩者です。私が六十歳の時、長年の広告業界のグラフィックの仕事が一段落し、何か趣味をと思つてた所、

歌が好きだったことから、夫が吟界におりましたので、誘われて今に至っております。以前より数多

いらつしやる先生方の中で、山口華雋先生の吟詠に心打たれ、私も先生の様に心に感動を与える吟詠

ができれば：とひとすら憧れておりました所、チャンス到来！去年、

夫の教室が諸事情で解散することになり、自由到来。そこで、ある先輩に相談したところ、念願の華洲

会にご縁を頂き、晴れて念願の山口華雋先生のご指導を受けるべく

一員になりました。気持ちも新たに、日々楽しく勤しみますゆえ、

奥山紅雋先生はじめ皆々様、よろしくお願い申し上げます。

紅白華合戦の審査

加納 浄美

詩吟と言えば



「鞭声肅肅：」しか知らなかった私

が今回、華洲会「紅白華合戦」の審査員を務めさせて頂きました。吟詠は全く未経験のため、その

の奥深さや表現の方法など、どのように感じ取り評価すればよいか分からず戸惑いの連続でした。

独吟・連吟・合吟では会場一杯に響く力強い声に圧倒されましたし、剣詩舞は舞手の年代が小学生

からベテランまでと幅広く、舞台せましと舞われる姿は風格があり凛々しく堂々として見事でした。

隠し芸では「本芸はどちらですか？」とお尋ねしたくなるくらい

本格的なものが多く、時間が押し

ていることも忘れて楽しませてもらいました。このような隠し芸で紅白対抗の場を作れることも華洲会の魅力だと思えました。華合戦終了後の懇親会にもご招待いただき、吟者の皆様のお話も伺え



懇親会も、大盛り上がりとなりました！



次回の錬成会でもよろしく！



特別ゲストに美空ひばり！？

REPORT

全国吟詠大会 in 大阪
野崎観音支部

嶋崎 瑛簾



大阪。今
大会 in
全国吟詠
大会 in
大阪。今

も担当していて、リハのつもりで行
ったら、録音しよう！となって焦
る：滑舌や抑揚の悪さに凹む：吟
にも繋がると勉強にはなったけれ
ど：。

幼少年の部は、時間の関係で姉
弟で合吟の予定でしたが、姉・吟、
弟・舞にしてもらって出演。とりあ
えず下を向くな！とだけ送り出し
ました。踊るのは好きなのに、カッ
コつけ方が分からないのが彼らし
いですが。娘は強気な吟。パワーを
感じられます。あとは言葉の明瞭
化を。彼女は構えすぎて変なとこ
ろに力が入ってしまっているのは分
かる。それをうまく導いたら良い
のだけど：そこは私も頑張ろう、
と一人反省会でした。

回も青年部枠に十分間割り当て
られました。そこで、何をしようと
なって、次の世代に繋げられるも
のに挑戦！新体詩、各々練習にあ
たりました。無謀にも男女連吟
詠？朗詠？の詩を担当することに。
以前師匠とやったことはある
けれど、混声は初めてでした。難
しかったけれど、一人でやるより
楽しかったです。舞台映像なども
編集できるようになりたいな、パ
ソコンも扱えるようにならなきや
とも思ったコーナーでした。

この日は、新準師範・師範の方
が出吟する構成吟のナレーション

吟詠普及推進研修会京滋大会 参加記

雋詠寺川支部池田教室

奥山 友雅



二月二十二日に
京都JA会館にお
いて、令和八年度
吟詠普及推進研修

会 京滋大会に参加いたしました。
本研修では主に「頼山陽について」
「発声方法の練習」「関西吟詩の歴史」の三つの内容について学ばせていただきました。

頼山陽についての講義では、歴史的偉人として多くの優れた詩を残した人物像だけでなく、人間的な側面についても学ぶことができました。特に女性関係において自由奔放な一面があったことなど、これまで知らなかった逸話を知ることができ、大変興味深く感じました。女性の観点から見る頼山陽

の人物像は新たな発見も多く、非常に印象に残りました。

発声方法の練習では、奥山紅雋先生のご指導のもと、実際に声の出し方を学ばせていただきました。横隔膜が張った状態で声を出す練習を学び、今後の練習において非常に大切な講習を受けることができたと感じました。また、当日参加されていた数名の方の吟を拝聴する機会もあり、さまざまな世代の方々が熱心に取り組まれている姿に感銘を受けました。私自身も、これからさらに努力していきたいと感じました。

最後に大石高堂先生による関西吟詩の歴史についての講義を拝聴いたしました。最初は戦前に数名の同好会として始まり、長い年月を経て現在の大きな組織へと発展してきたことを知り、改めてその歴史の重みを感じました。また、

現在は会員数が減少している現状もあると伺い、詩吟をより多くの方に知っていただき、普及していく必要性を強く感じました。同時に、歴代の諸先生方から学び、その伝統を受け継いでいくことの大切さを再認識いたしました。

今回の研修は大変有意義なものであり、詩吟に対する理解を深める貴重な機会となりました。準備に時間をかけ、分かりやすい内容を考えてくださった先生方に心より感謝申し上げます。今回学ばせていただいたことを、今後の稽古

や活動に生かしてまいります。ありがとうございました。



ご参加の皆さん、お疲れ様でした！

川西市詩吟連盟結成55周年大会

「未来に繋ぐ風を吹かそう」を開催して

川西市詩吟連盟会長 竹本瑞鼓
華洲会 副会長 竹本瑞鼓

秋まで食い込んだ猛暑がやっとおさま
って数週間、肌寒い日を少し挟んで秋らし
さが感じられる日々となった令和7年10
月26日、兵庫県川西市、阪急電鉄宝塚線川
西能勢口駅前のアステ川西市市民プラザ6
階のアステホールで川西市市長越田謙治郎
様を始め市議会議長、市教育長、市文化協
会長、伊丹連合吟詠会長のご臨席を賜り、
結成55周年記念大会を会員など109名
の参加で開催。

大会日程は関吟全国吟詠大会に大阪と
重なる中での開催で、関吟関係の参加者は
華洲会川西地区73名、池田市吟剣詩舞連
盟参加の鷺迪吟詠会池田から10名、摂友
会から2名の参加、他の会からは伊丹連合
吟詠会からの参加も加えてづけ16名の参
加。参加者の8割強が関西吟詩で、式典で

総本部会長からのメッセージが大きな力
づけになりました。

この大会はコロナ禍で、50周年大会開
催を見送り、55周年大会として開催した
もので、会員の減少と高齢化など活動の停
滞を感じる中で「未来に繋ぐ風を吹かそう」
をスローガンに会の目的をそれぞれの胸
に刻み込んでいただくべく開催しました。
次第は式典に続き連盟歌合吟です。この
連盟歌は「猪水滔滔 千古に芳し 源氏の
興る処 これ仁郷」と川西市の歴史を読み
込み、「一吟
克(よ)く励
んで 先哲
に親しみ
俱(とも)に
連盟を擁し
て 意(こ

意(こ



また今後に向けて、ご来賓の伊丹連合吟
詠会の高橋風城会
長には今後の交流
を約束いただき、
近接の池田市吟剣
詩舞参加の鷺迪吟
詠会の皆さんとは、
吟詠大会相互交流
の深化を体感出来
た意義ある大会と
なりました。

ころ)愈々(いよいよ)昂(たかし)」と吟
詠を学ぶ目的を書き込んでいます。会員全
員で、ご来賓の市長・議長・教育長の耳に
しっかり届けとばかりにこれを詠ってい
ただきました。

その後、アトラクションとしてオペラ歌
手と共に唱歌を歌い、マジックショウ、過
去の周年大会のビデオ放映、最後に大抽選
会を行い、明日からの会員増強へ英気を養
えた大会となりました。

令和七年度 各競吟大会 成績表 (3) (9/1~12/14) 令和7年 12月15日現在

10/5 2025年度 愛連二部 (指導者級) 吟士権者決定詩吟大会

場所：尼崎市総合文化センター

〈決勝吟詠〉準々吟士権者：今井 彩梨 (胄山) / 入賞：堀 彩剡 (川西大和)

11/1 令和七年度 関西吟詩 大阪地区連 優勝者決定大会

場所：大東市立市民会館キリエール

〈律詩連吟の部〉準優勝：平野りさ・福田和美 (川西大和)

四位：中村房恵・箱田 稔 (川西北)

〈初級の部〉優勝：尾崎ゆかり (胄山)

〈上級の部〉五位：加納 恵介 (雋詠寺川)

〈和歌の部〉上位入賞：竹本 勇 (丸の内中央)

〈師範以上の部〉準優勝：嶋崎 樹里 (野崎観音) / 上位入賞：堀 香織 (川西大和)

11/9 令和七年度 関西吟詩 全国新人中間層競吟大会

場所：大東市立市民会館キリエール

〈新人の部〉優勝：宮越友江 (雋詠寺川) / 準々優勝：橋口稔子 (雋詠京都)

入賞五位：安場瑞江 (雋詠寺川)

〈初級の部〉優勝：尾崎ゆかり (胄山)

上位入賞七位：奥山友雅 (雋詠京都) / 入賞：奥山英夫 (雋詠京都)

〈上級の部〉入賞：加納 恵介 (雋詠寺川)

11/16 令和七年度 京都府吟士権者決定決勝吟詠

場所：八幡市文化センター

〈第一部 (一般の部)〉四位 奥山久美子 (雋詠京都)

12/14 令和七年度 全国指導者級吟士権者決定詩吟大会

場所：高槻城公園芸術文化劇場北館

〈指導者以上の部〉決勝四位：堀 香織 (川西大和) / 入賞：嶋崎樹里 (野崎観音)

〈準師範の部〉優勝：奥山久美子 (雋詠京都) / 上位入賞八位：箱田 稔 (川西北)

入賞：福田和美 (川西大和)

〈師範代の部〉準々優勝：川田麻衣子 (雋詠京都) / 上位入賞五位：上野 敦 (川西豊友)

入賞：中西民夫 (川西大和)

〈和歌の部〉入賞：中村房恵 (川西北) 川田麻衣子 (雋詠京都)

〈シニアの部〉上位入賞六位 岡森泰三 (雋詠伊賀)

華洲会のyoutubeが好評です。チャンネル登録者数も3,590人、動画・ショート動画の更新も継続中！再生回数を伸ばすことも、詩吟のアピールにつながります(^o^)



第5回（前編）『吟詠発声の基本事項』講師：会長 山口 華雋...

16,496回視聴・3年前

令和4年度 第1回「華洲未来塾」 第5回吟力向上講座より
前編：『吟詠をする上での基本事項の確認&復習』

1. 腹式呼吸
 2. 綺麗な口の中の形と口腔空間を広く共鳴と声の美しい響き
 3. 横隔膜の張りとの支え
 4. 口腔真ん中で声を出す、横隔膜を張り声の支え応用実践（歌唱：千の風になって〜）...
- 詳細

チケット好評発売中！

EVENT

昨年、西宮市で新たな試みとして始まった、「和の祭典」。詩吟・日本舞踊・狂言・琵琶など、多彩なジャンルの古典芸能の担い手が一堂に会し、三百名以上の観客に多くの感動を与えました。大好評を博したこのイベント、早くも第二回目がまもなく開演します！「詩吟」の部では、今井彩黎先生（青山支部）が出演されます。開催は、五月二四日（日）一三時開場、一三時三〇分開演、会場は兵庫県立芸術文化センター・神戸女学院小ホールにて。チケットは一人三、〇〇〇円。お問い合わせ・ご予約は同センターチケットオフィス（〇七九八―六八―〇二五五）まで。



BOOK REVIEW

飲中八仙歌

千葉ともこ・著／新潮社

雄大で大らかな作風の詩仙・李白に対し、実直・硬質な詩的世界をもつ杜甫。不遇な半生を送る彼は、賀知章・張旭・蘇晋そして李白といった酒豪を訪ね歩き、やがて「国破れて山河あり」の境地に至り、皇帝に諫言を試みる……。著者の千葉ともこ氏は、今作が四冊目の作品。東洋史をベースにした小説を得意とする。作中の人物達の息づかい、街の匂い、酒の風味、どの描写も、間近で目撃しているような臨場感あふれる筆致である。詩吟・漢詩を学ぶ私たちには、必読の作品だ。令和七年十二月刊行、本体価格二、四五〇円。

編集後記

『華』七九号をお届けします。いつも年度ギリギリの発行となり、申し訳ありません。今年度に初めて実施した、「紅白華合戦」、大成功に納まりました。皆で力を合わせて、一つの目標に向かっていけるのが華洲会の強みだと思います。次年度も、研修会に錬成会に、たくさんの挑戦を続ける会の様子をお伝えできればと考えています。引き続きよろしくお願いいたします。左に挙げた「QRコード」は、華洲会のホームページです。お手元のスマートフォンのカメラ機能でコードにかざすと、ホームページが見られます。是非ご活用下さい。(秋月奎翁)



『華』第79号

令和8年3月31日発行

発行人：山口華雋

編集担当：秋月奎翁